

「多主体協働による地域課題の解決」を目指して
令和2年2月18日（火） @埼玉県立大学

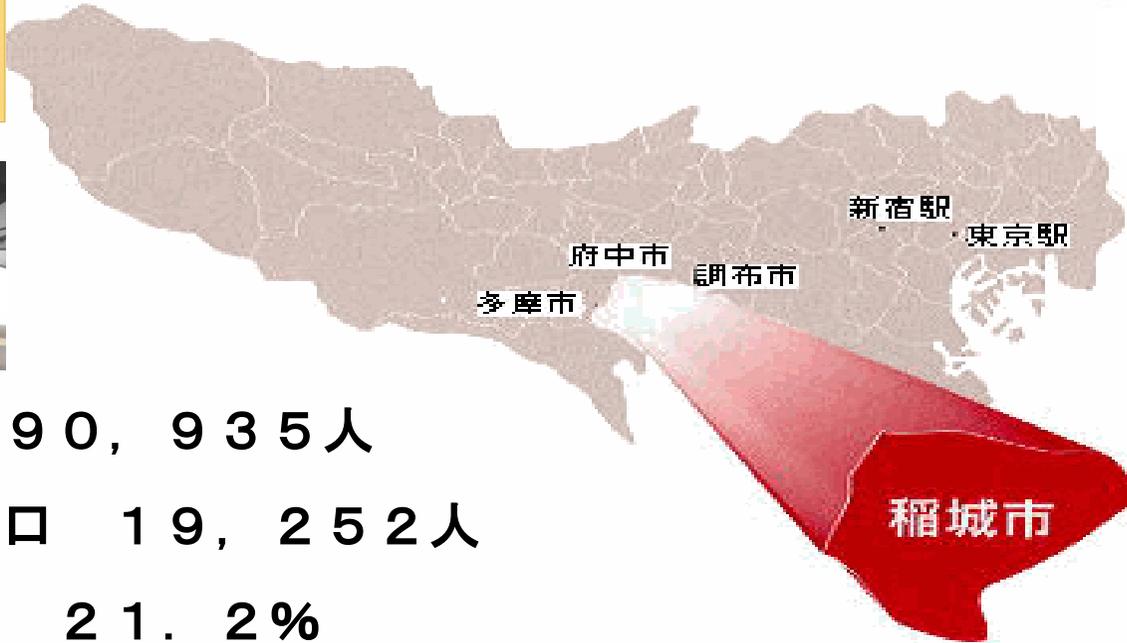
地域課題と民間に期待すること ～今までの連携を活かし、広げる～

稲城市高齢福祉課
地域支援係長
飯野雄治

稲城市公式イメージキャラクター
稲城なしのすけ



稲城市の紹介



人口 90,935人

高齢者人口 19,252人

高齢化率 21.2%

要介護認定者数 2,801人、認定率 14.5%

(平成31年4月1日現在)

- ★東京都心の新宿から西南に約25km、南多摩地区の東端に位置しています。
- ★面積は 17.97km²(東西、南北とも約 5.3km)です。
- ★日常生活圏域4か所です。

介護支援ボランティア5000p+のお楽しみ！

Jリーグ東京ヴェルディ観戦ツアー・よみうりランド（遊園地）招待

稲城市介護支援ボランティア制度

平成17年度稲城市提案 → 平成19年度介護保険制度として実施
【介護保険料控除】 【ポイント制】

- ①介護支援ボランティア活動でスタンプ押印をもらう。
- ②スタンプを集めてポイントに換える。
- ③申請でポイントの交付金（最大5,000円）を受け取る。

実質的な介護保険料負担の軽減



観戦ツアーご家族ご招待



↑デイサービス利用者へ昼食の盛り付けや配膳・下膳



←高齢者の方々の、会食会（お誕生日会など）の盛り付けや配膳等



よみうりランド入園券（ペア券、乗り物券3回付）

民間事業者との協定締結による連携（稲城市）

高齢者見守りネットワーク事業

- 平成27年度より開始 41事業所と締結
- 異変のある高齢者又は何らかの支援を必要としている高齢者を早期に発見し必要な支援を行う等、地域社会全体で高齢者を見守る体制を確保するために、高齢者と接することの多い協力団体、見守りサポーター、協力事業者等と連携することにより高齢者の見守りの仕組み(高齢者見守りネットワーク)を構築するもの
 - 稲城市内において業務活動中に、地域の高齢者等の見守り、声かけ、状況確認等を負担のない範囲で行い、何らかの異変を察知したときは、市役所又は地域包括支援センターに連絡する。
 - 緊急を要するものと判断したときは、必要な措置を講ずるとともに、あわせて警察署又は消防署へ通報する。

事業者一覧(30年度末)

(株)青木屋稲城長沼店、ALSOK、アルフレッサ(株)町田店、(株)石井鑑定測量、和泉屋寝具(株)、(社)稲城市シルバー人材センター、稲城市薬剤師会、(株)おぼうさんどっとこむ、きらぼし銀行稲城支店、きらぼし銀行若葉台支店、京王自動車(株)、個太郎塾稲城教室、(有)筑屋、NPO支え合う会みのり、さわやか信用金庫、城南信用金庫稲城支店、生活協同組合コープみらい、生活協同組合パルシステム東京、西都ヤクルト(株)、(株)セブンイレブン・ジャパン、セントラル電子制御(株)、第一生命保険(株)立川支社、(有)つるや、ディパーチャーズ・ジャパン(株)、東京都住宅供給公社、東京都水道局、東京生活協同組合、布亀(株)、ファッションハウスピエロ、(有)福島屋、ブティックラブマイム、ブレドール、ヘアサロンアサコ、ヘアサロンN、(有)ホイップ、ミカド洋品店、みずほ銀行稲城中央支店、(有)ゆたか、洋菓子工房pan y vino、理容ウメザワ



地域包括ケアシステムの構築推進に関する連携協定

- 平成29年度より開始 製薬会社2社と締結
- 医療・介護・予防等の一体的提供ができる地域づくりを念頭に、製薬会社との連携、協力を深めるもの

協力いただくこと

A社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症コーディネーター連絡会でオブザーバーとして情報提供 ・ 医療・介護関係者に対する認知症に関する研修への協力 ・ 認知症初期集中支援チームに対する他自治体等の情報提供
B社	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅医療・介護連携推進協議会でオブザーバーとして情報提供 ・ 在宅医療・介護連携推進協議会が主催する研修の講師の紹介

稲城市地域包括ケアシステムの構築推進に関する連携協定を締結しました

住みなれた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・予防等の支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築推進のため、7月18日に次の二社と協定を締結しました。

認知症施策に関する協定（エーザイ株式会社）
 認知症支援コーディネーターや認知症初期集中支援チームへの情報提供など、認知症に特化した支援をいただきます。
在宅医療・介護連携推進事業に関する協定（ファイザー株式会社）

稲城市在宅医療介護連携推進協議会へのオブザーバー出席・情報提供など、在宅医療・介護連携推進事業の支援をいただきます。

▲高齢福祉課地域支援係



▲キャプション



▲キャプション



3つの見守りの方法

ゆるやかな見守り

【見守る人】
地域住民や民間事業者

「いつもと違う」
「何かおかしい」と
感じる人がいた時に
連絡

担当による見守り

【見守る人】
民生・児童委員、ボラ
ンティア、みどりクラ
ブ

【対象者】
定期的な安否確認や声
掛けが必要な人

専門的な見守り

【見守る人】
地域包括支援センター

【対象者】
対応拒否・認知症・困
難な課題を抱えている
高齢者など

みなさまにお願いする見守り

在宅医療・介護連携を推進するための多職種協働研修の実施（稲城市）

- 在宅医療と介護が連携したサービス提供の実際について理解を深める多職種連携研修の実施を通じて、テーマに沿った専門知識を得るとともに、サービス提供に資する顔の見える関係づくりを進めるもの。
- 座学のみでなくグループワークにより事例を検討することにより、模擬的に多職種連携を経験する機会を創出。
- グループワークが成立するよう医療職の参加を確保するため、参加者は事務局が調整（職能団体等に人数を指定）。
- ・ 各班にケアマネ、看護師、医師/歯科医師、薬剤師、PT/OT/管理栄養士、柔道整復師、MSW/精神保健福祉士/認知症支援コーディネーター/介護福祉士
- 研修内容は、市内のケアマネや医師、看護師等で構成された研修検討部会で企画、立案。市と医師会とが共催。

令和元年度の日時、場所

日時: 令和元年11月24日(日) 10時~16時30分
 場所: 稲城市立病院 検診外来棟 講座室



プログラム内容

内容	講師等
開会あいさつ	石田 副市長
要介護高齢者の在宅医療に関するアンケート結果より	工藤 高齢福祉課課長
講義「ACPと人生会議」(30分)	訪看ステーションけせら 佐藤美雪氏
職種紹介「業務内容と意思決定支援の取組」	市内7職種(12分×7)
事例検討「末期がん患者の意思決定支援」(90分)	8人×7班
講演「在宅現場の地域包括ケア」(60分)	白十字訪問看護ステーション 秋山正子氏

参加者のアンケートから

- ◆ 在宅医療に関するアンケートで地域の実態を知ることができた。
- ◆ 他の職種に関する新たな知識、臨床や実践のヒントを得た。
 - ・ 臨死期の予後予測をスケールで可視化出来ること/訪問診療の点数や内容/看多機の利用方法/薬剤師さんの役割の拡大/薬局でHbA1cや血糖が測れること/「ご飯が食べられなくなったらどうしますか!」を意向確認の入口に活用できる/多職種で会議し、納得のいく意思決定支援を実践していきかけとなった/直死ではなく最期までのぞみをもてる在宅医療に取り組みたい。
- ◆ 他の職種の視点や意見を知り、多職種で関わることの意義が分かった。
- ◆ 本人の意思を第一に優先することの大切さ、難しさ(特に終末期)を知った。
- ◆ 秋山先生の多くの働きに感激。
- ◆ 初参加だったが、顔の見える関係になることの安心感のようなものがありました。



- ・ 令和元年度の様子(参加者50名)
- ・ 研修参加者には修了証を配布

駒沢女子大学(健康栄養相談室)と連携した包括的な介護予防事業の委託(稲城市)

- 市内の大学の協力により、専門性が担保された介護予防プログラムを提供いただくもの。
 - 高齢者自らが身体機能の変化に気づくとともに、生活習慣の改善方法を学ぶことで介護予防に主体的に取り組めるよう、概ね65歳以上の高齢者に対して、運動・栄養・口腔のプログラムを総合的に提供するもの。
 - また、「食べる機能」を中心とした咀嚼や嚥下の口腔機能、肺炎予防の口腔ケアを知るプログラムを提供することで、口腔機能向上による介護予防の啓発を図るもの。
- 会場の確保は市、事業の案内チラシ等の作成は大学、広報やホームページへの掲載や受講者の申込み受付は市、受講者決定後の通知等は大学が行う。

学生(白衣)もたくさん参加する



複合型介護予防教室(8日間コース)

高齢者の介護予防のための筋力アップ、口腔ケア、栄養指導を総合的に提供する複合プログラムにおいて実施する。

- ① 8日間コースを2回おこなう。
- ② 筋力の維持、向上を目的とした自宅でも実践可能な運動プログラムを行なう。
- ③ 低栄養予防を目的とした講義を行い、栄養バランスが良く、簡単な調理ができる献立の実習を行なう。
- ④ 咀嚼・嚥下機能の低下予防、肺炎予防を目的とした講義と、日常生活で習慣化できる口腔体操を行なう。

口腔機能向上教室(2日間コース)

いつまでも食を楽しむことを目的として、口腔機能や低栄養を学び、日常に取り入れやすい口腔体操を行なう。

- ① 2日間コースを2回行なう。
- ② 口腔機能、栄養バランス、口腔ケアの講義を行なう。
- ③ 日常生活での習慣化を目的に口腔体操を実践する。

効果測定の様子



調理実習の様子



歯磨きの仕方の講習



知性と理性を備えた
心豊かな女性の育成

地域課題と民間に期待すること（稲城市）

現状認識

- 協定等を通じて、稲城市と何らかの関係ができてきている市内民間企業等が多い。
- 市内の高齢者の生活支援体制整備は、緩やかながら進んでいる（つながりフォーラムの実施）。
- 「市内民間企業に期待すること」が整理できていないため、組織的なアプローチが取れていない。
- 生活支援コーディネーター等が単独で民間企業に交渉しても、協力してもらえなかった事例が多い。
- 市の職員が交渉すると協力が得られることもあるが、地域課題を整理して企業等に伝えるという仕組みがない。

地域課題と民間に期待することの例

- スーパー等には、認知症を理解し見守ってほしい。
- 会議室がある事務所や温泉には、通いの場としてスペースを貸してほしい。
- その他、空き店舗、空き家を活用しやすいような仕組みがあると、通いの場のスペースを確保しやすくなる。
- スポーツジムには、身体機能が落ちて通えるコースを作してほしい。
- 送迎バスを持つ幼稚園や法人には、通いの場への送迎に協力してほしい。
- 高齢者だけでなく、若い世代とつながりを持てるよう民間企業の力を借りたい。



令和元年度の「地域のつながりフォーラム」の様子（参加者90名）

8期に向けて（担当者の案）

- 地域の課題（企業に期待すること）を発掘する機会を増やすため、地域ケア会議の開催頻度等を増やしてはどうか。
- 地域の課題を整理する作業は、協議体連絡会（生活支援コーディネーターの連絡会）で担ってはどうか。
- 地域の課題を企業とシェアし、企業に役立つ情報を提供するとともに、企業の困りごとにも採取する場を設けてはどうか。